

主体的に研修に取り組んで下さる姿に感謝

いよいよ、夏休みスタート。一学期の間は、目の前に子どもがいても、いなくても、頭の中は子どもたちでいっぱい。「どうしたらいいかな？」と考えている間に、次のテーマについて考える必要性が生まれ、頭の中は常に活動的な状態だったのではないのでしょうか？夏休みになり、少し時間が生まれ、静観的に自分の指導や子どもたちについて振り返る余裕が生まれていると思います。私たちもしっかり「ふりかえり」、二学期以降子どもたちの力となれるように「アップデート」していきたいですね。

初日から早速、主体的に取り組んで下さる先生方のお姿に感謝です。夏休みも、充実の研修になりそうです。

☆ひょうげん部☆

私たち教師が、「ふりかえり」と「評言」を実施。テーマは、「最近あった、小さなガッツポーズをした瞬間」。テーマを伝えると先生方の視線が、右上の方へ。「何があったかな？」と一人ずつが、思い出していました。例えばある先生が、「隣のクラスの保護者が、懇談で自分のことを話してくれたみたいで…」と話されていました。それに対して、聞いてくださった先生が「それは、〇〇先生の子どもの関わりがいつもあたたかいからだよ」と「評言」。この「評言」により、話して下さった先生にとってもよりうれしい出来事になっていました。



その後は、一学期に行った「振り返り」についての実践交流。一学期の取り組みについて振り返るとともに、「二学期はこれをやってみよう」というヒントを見つける時間になりました。

☆探究部☆

一学期に作成した「ループリック」について、交流をしました。「ループリック」を教師が子どもたちを評価するためのツールとしてだけではなく、子どもたち自身が自分の学びの現在地を確認したり、明確なゴール像を持つために使われたりしているものばかり。授業の終末にループリックが登場して、振り返るのではなく、導入で子どもたちとループリックを確認し、明確なゴール像を共有しているから、終末で子どもたちにとって達成感を抱いたり、次の目標設定につながったりしていることを感じました。

作ることが目的ではなく、子どもたちが学びを広げ・深めるツールとしていきたいですね。



振り返りにして、ループリックにしても、教師の「評言」にしても、あくまでツール。それを使う先生方が、どんな「観」を持ち、子どもたちのどこに光を「てらすか」としているかが大切になるということは、どちらの部でも共通していました。「観」や「てらし方」を磨くためにも、様々な先生のお話や実践を聴くことは、とても学びになりますね。

